

# サトウキビ夏植え植付時処理粒剤のカンシャシクイハマキ幼虫に対する殺虫効果

夏植えで植付時処理した粒剤のカンシャシクイハマキ幼虫に対する殺虫効果の持続期間は処理後40日程度

## 背景・目的

- ・サトウキビ栽培では春期と秋期にメイチュウ類(カンシャシクイハマキ, イネヨトウ)の発生が多く, 芯枯れ被害が増加
- ・メイチュウ類の防除対策として植付時に粒剤を処理
- ・生育期の防除時期を判断するため, 植付時処理した粒剤の殺虫効果の持続期間を解明

## 成果の内容

- ・夏植えで植付時植溝処理した3粒剤の殺虫効果は, 処理後40日までは高いが, その後は急激に低下する。
- ・殺虫効果の持続期間はプレバソン粒剤, プリンスベイト, オンコル粒剤5の順に長い。

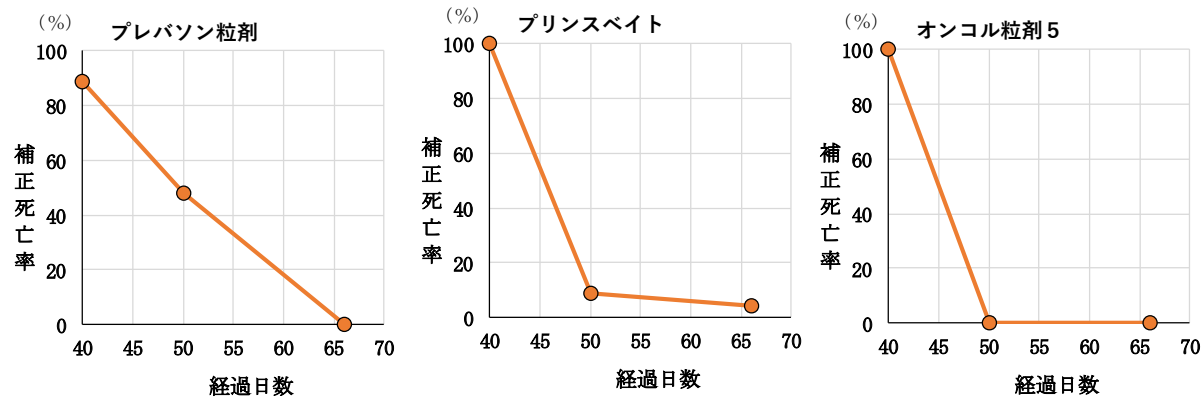


図 夏植え栽培における粒剤処理後のカンシャシクイハマキ幼虫の補正死亡率

## 期待される効果

- ・植付時粒剤処理の殺虫効果が低下していく40日後に圃場を見回り, 芯枯れ被害が目立つ場合は生育期に防除を行うことで, 安定生産となる。

○普及対象・範囲 サトウキビ栽培生産者  
(技術員向け)

鹿児島県農業開発総合センター  
大島支場 病害虫研究室